No.716 広報 ふっさ

平成18年（2006年） 8月1日

発行/福生市　編集/企画財政部秘書広報課　〒197-8501 福生市本町5　☎042-551-1511（市役所代表）

福生市のホームページ http://www.city.fussa.tokyo.jp/

市の花・つつじ　市の木・もくせい　市の鳥・ジジュウカラ

今号の主な内容

市職員募集 …… 2面
市ホームページのバナー広告募集 … 3面
私立幼稚園等の保育料・入園料補助 … 4面
バリアフリーの推進にご協力を …… 5面
生涯学習ガイド「学ぼう・体験しよう」… 6面
市内小中学校に防犯カメラを設置 …… 6面
ごみ・資源に関するポスター・標語募集 … 8面

# ご参加ください 平和のつどい

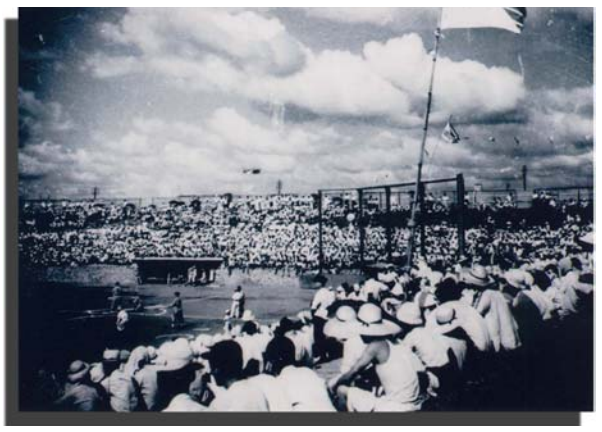
## 「市民が語る戦後の福生（昭和20年代）パートⅤ」

日時 8月13日(日)午後1時開場、午後1時30分開演
場所 市民会館小ホール（つつじホール）※入場無料先着260人
問合せ 総務課庶務係

市主催の「平和のつどい」を開催します。皆さんお誘いあわせのうえ、お気軽においでください。

19回目となる今年は市民の方3名に戦中・戦後の生活等について話をしていただきます。お話を通して、平和の尊さを考えていただければ幸いです。

昭和25年8月のプロ野球の公式戦
（写真提供：坂本丁次さん）



### 講演者：成田和子氏（テーマ　戦時勤労動員・戦後教師体験）

成田和子さんは昭和17年に東京女子師範学校（現在の東京学芸大学）に入学しました。東京大空襲の日、小石川にあった寄宿舎から下町の方向でB29が真っ赤な炎の上がる空を旋回するのを見たそうです。この空襲で同級生が1人亡くなりました。

昭和23年福生一小の教員となりました。ミルクとみそ汁の給食が始まりました。新聞紙でおべんとうが見えないように隠して食べている子どももおり、そんなときはなるべく子どもの方に目を向けないようにしていました。

戦後はグループ学習がさかんに行われ、協力する大切さ、自分の意見を言える力を身につけることに力を注いだそうです。学用品も少なく、着るものも不足していた時代でしたが、子どもたちは明るく、ひたむきだったと述懐されています。

### 講演者：栗原仁氏（テーマ　福生の自然とあそび）

栗原さんは現在の消防署横にあった乾繭（かけん）所の社宅に住んでいました。昭和13年ころは養蚕（ようさん）の最盛期でしたが、戦争を境に衰退していきます。昭和20年には工場は軍需工場として接収され、終戦後米軍の宿舎となり、その後解体して学校の建築資材となりました。

子どもたちは自然とかかわり、働くこととも結びついた遊び方をしていました。強風が吹くと、そだや落葉を拾ってたきつけにするために「はけ」や神社の森に集まりました。まちの中で他の地域に出かけ、その地域の子どもたちとも交わり、遊びを教えてもらうということもありました。

いまではあまり見られなくなった生き物たちについてもお話していただきます。

### 講演者：坂本丁次（ていじ）氏（テーマ　機銃掃射とプロ野球）

昭和20年7月、旧制中学1年のとき、下校する五日市線の中で米軍の機銃掃射を受けました。このとき坂本さんは幸いけがをしませんでしたが、3人の方が亡くなり、40人の方が重軽傷を負いました。電車は鉄橋を渡っていたところで、友人と話をしていましたが、低空飛行で飛んでくる飛行機に乗ったパイロットの顔が見えたそうです。電車の中は血の海になり、無我夢中で逃げ出し、東秋留駅までたどり着きました。お昼ごろの電車に乗っていましたが、家に帰ったのは夕方でした。

戦争が終わり、昭和25年8月福生でプロ野球の公式戦が行われました。巨人対国鉄（現在のヤクルト）の対戦で、写真は新聞記者だった坂本さんの父洋次郎さんが撮影したものです。当時坂本さんは高校生でした。

昭和25年ごろの福生第一小学校の卒業式
（写真提供：成田和子さん　成田さんは前から4列目の右端）

**第56回福生七夕まつり** 8月3日(木)～6日(日)くわしくは、同時配布のパンフレット、または市のホームページをご覧ください。問合せ 七夕まつり実行委員会事務局（地域振興課産業振興係）

**8月1日市ホームページをリニューアル** 問合せ 秘書広報課広報係

## きんもくせい

### 七夕

ふっさ七夕まつりは、昭和26年に始まりましたから、今年で56回目になります。

その間さまざまな皆さんのご協力で発展し、集客数では多摩有数のお祭りとなりました。

平成5年、今までの露天商に任せていた出店を市民の模擬店に変えた（模擬店部会）ことから始まり、イベント部会、飾り付け部会も市民企画、実施という形になり、市民中心の祭りに変化し、お客さまの数が飛躍的に増加しました。

七夕が終わると、その秋、反省会が行われ、次の年の準備が始まるという部会活動と部会メンバーの新陳代謝や係わった人の増加が毎年新しい形を作り出しています。

歴史と伝統の上に新しさを加えて、言うだけでなく実行する（それは責任も持つことでもありますが）ことによって結果と評価が見えてきます。

福生を代表する祭りを自分たちで作る、その実践を行っていただいている部会メンバーのボランティアの皆さんのご努力に敬意と感謝をしながら、今年もどんな七夕になるか、楽しみです。

福生市長 野澤久人

7月1日の市表彰式で